第 18 回 「まちの活性化･都市デザイン競技」の結果概要

主　催：まちづくり月間全国的行事実行委員会、公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター
後　援：国土交通省、富山市
事務局：公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター

■趣　旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要になっています。現代の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備えた洗練された表現と演出が求められ、その魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されます。

こうしたまちづくりの基本的課題を踏まえ、本「まちの活性化・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについて広く一般から提案を募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的として、平成 10 年度より毎年実施しています。

■対象地区

今年度の対象地区は、公共交通の結節点であり、また、富山市都市マスタープランにおいて、市が推進する「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」の地域生活拠点として位置づけられている「南富山駅周辺地区」（約 79ha）を対象地区に選定しました。

■募集内容

１．対象地区の現況と課題、整備の方針

富山市では、今後の人口減少と超高齢化を見据え、「鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化などの都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」の実現を目指しています。富山市では、「お団子と串の都市構造」と言っています。串は、一定水準以上のサービスレベルの公共交通、お団子は串で結ばれた徒歩圏を表しています。鉄軌道やバスなどの公共交通の活性化を図るとともに、徒歩圏（お団子）を公共交通（串）でつなぐことにより、自動車を自由に使えない市民も、日常生活に必要な機能を享受できる生活環境の形成を目指すものです。

お団子の核となる鉄道駅周辺では、駅ごとに都市機能の集積や、周辺の土地利用の状況等に違いがあり、それぞれに役割や性格、魅力が異なっています。

当該、南富山駅周辺地区は、お団子のなかでも、一定程度、居住や生活利便施設が集積している地域生活拠点として位置付けています。

そして、地域生活拠点の中でも南富山駅周辺地区は、公共交通の結節点でもあり、また、中心市街地にアクセスしやすく、当該地区の機能強化がコンパクトなまち実現にも寄与する重要な地区であると考えています。

＜富山市が目指すお団子と串の都市構造（概念図）＞

南富山駅は、不二越・上滝線（鉄道）と市内電車が結節しており、さらに運行頻度の高いバス路線のバス停も近い交通結節点となっています。将来的には、市内電車の不二越・上滝線への乗り入れも構想されています。

また、富山市都市マスタープランにおいては、南富山駅の乗継機能の強化、交通結節機能の強化とともに、駅前商店街の充実や、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地を形成することとしています。

今回の募集に当たり、コンパクトなまち実現のため、交通結節拠点性や機能立地特性を背景に、潜在的な魅力を持ち、既存の基盤・機能集積を活かすことで、まちづくりの効果が見込め、一定のポテンシャルを持つ地域であることから、南富山駅周辺地区としました。

対象地区の鳥瞰

南富山駅

２．対象地区の都市計画

対象地区の「南富山駅周辺地区」（約 79ha）は、（都）堀川線沿線及び駅前商店は近隣商業地域に指定されており、それ以外はほぼ第一種住宅地域及び第一種中高層住宅専用地域、第二種中高層住宅専用地域に指定されています。

３．提案募集の内容

本競技は、上記の現況と課題及び整備の方針等を踏まえた上で、富山市の取組む「コンパクトなまちづくり」の実現に向けて、対象地区の魅力を高め、地域全体を活性化するための拠点整備、回遊性の向上、良好な景観形成を図るための都市デザイン、その整備手法について、次のような提案を求めたものです。

①南富山駅を核とした、地域生活拠点としての機能強化と、交通結節機能および駅へのアクセスを強化する整備と手法の提案

既存の地域生活拠点としての特性に加え、潜在的な魅力を掘り起し、自動車を自由に使えない人にとっても利便性が高く、住みやすい・住みたいまちとなるような都市デザインの提案を求めました。

②住民の外出・交流機能を創出し、また地域の賑わいにつながる空間づくりの提案

自動車を自由に使えなくても、日常生活に必要な機能が享受できるだけでなく、外出し、交流することが、生き甲斐や健康づくりにつながることから、実現するための空間づくり及び手法についてのアイデアを求めました。

４．応募図書

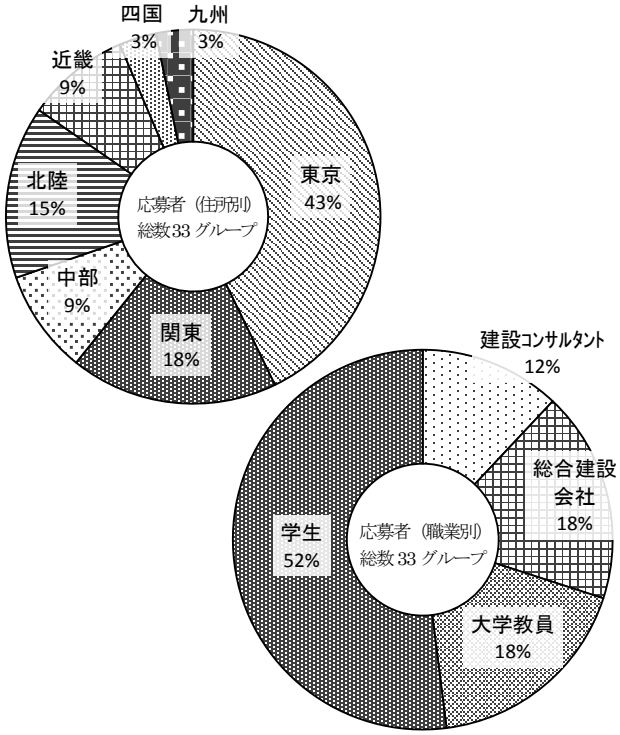
上記の募集内容に即して、対象地区の整備構想、主要な提案空間のデザインイメージ、実現化方策などをＡ２サイズのパネル２枚に表現したものと、提案の要旨をＡ４サイズ１枚にまとめたものを応募図書として提出を求めました。

■スケジュール

応募登録	平成 27 年	9 月 7 日（月）
		～10 月 5 日（月）
現地説明会	平成 27 年	10 月 23 日（金）
質疑応答	平成 27 年	10 月 23 日（金）
		～10 月 30 日（金）
作品提出	平成 28 年	1 月 15 日（金）
		～ 1 月 21 日（木）必着
審　　査	平成 28 年	2 月 29 日（月）
表　　彰	平成 28 年	6 月（予定）

■応募件数・応募者の属性

事前の応募登録数が 43 グループあり、最終的に提出された応募作品数は 33 でした（応募者の属性は円グラフを参照）。



■審査委員会及び結果

１．審査委員会

委員長　西村幸夫　東京大学教授
委　員　石川幹子　中央大学教授
　　岸井隆幸　日本大学教授
　　高見公雄　法政大学教授
　　藤本昌也　建築家
　　英　直彦　国土交通省市街地整備課長
　　森　雅志　富山市長

審査方法等の確認：審査を始めるに当たって、審査の内容・方法等について確認されました。

第一次審査：審査委員が各作品を一通り閲覧したうえで、一回目の投票が行われ、有望作品として十数点あげられました。

第二次審査：有望作品一つ一つについて議論された後、二回目の投票により入賞候補作品が絞り込まれました。

最終審査　：入賞候補作品を並べて、相互に比較検討しながら大臣賞をはじめ各受賞作品が選定されました。

２．審査結果

審査委員会での審査の結果、下記の入賞作品が選定されました。

※富山市長特別賞は富山市により選定されました。

○国土交通大臣賞（1 点）
…… 賞状及び賞金 50 万円
（株式会社 日建設計シビル）
足立真一、藤井晴日、高橋舞、馬場睦
（株式会社 日建設計）
水嶋輝元、花岡竜樹、石井雄太

○まちづくり月間全国的行事実行委員会会長賞（1 点）
…… 賞状及び賞金 25 万円
（法政大学大学院デザイン工学研究科
都市環境デザイン工学専攻）
結城直紀、友定憲映、池田恵一朗、金城正紀

○(公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞(1点)
…… 賞状及び賞金 15 万円
（戸田建設株式会社）
松永彩、北村有希博

○奨励賞（2 点）　各賞状及び賞金 10 万円
［奨励賞１］
（神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻）
足立将博、中野聡太

［奨励賞２］
（東京大学大学院工学系研究科社会基盤専攻
景観研究室）
小出ひかり、髙栁誠也、小粥慶子

○富山市長特別賞（1 点）‥ 賞状及び記念品
（株式会社 森本組）
水谷祐司

■入賞作品の概要

入賞作品の概要は次頁以下の通りです。詳細は（公財）都市づくりパブリックデザインセンターのホームページ（下記ＵＲＬ）をご覧ください。

http://www.udc.or.jp

国土交通大臣賞

応募者：
（株式会社 日建設計シビル）足立真一、藤井晴日、高橋舞、馬場睦
（株式会社 日建設計）　　水嶋輝元、花岡竜樹、石井雄太

テ ー マ：　「駅と暮らす　-まちどまへ寄り添う道づくり-」

主な提案：　**【方針】「交通拠点に特化した駅前を人の空間へ転換」**：利便性を保ちつつ、人が自然と集まり、佇み、食事や勉強、電車を待つことが出来る場所を創出し、交通の核である駅前を、町の核に転換する。
「核に繋がる人のための道づくり」：駅・駅前の再編のみでは、駅施設や公共交通の利用促進は不十分であり、団子の外側と街の核とが魅力的かつ安全でバリアフリーなネットワークで繋げる必要がある。そのため、居住地域圏内から核に繋がる、人のための歩行空間をつくる。

【提案内容】

◆『まちどま』：地域の核である駅舎の屋内外に『まちどま』を設け、地域住民の様々な活動を受け入れる。

◆『通いみち』：『まちどま』につながる道を安全で快適に歩行できる空間に変えることで、道の積極的な利用を促す。

◆『駅周辺交通機能』：駅の利便性を高めつつ、地域住民が日常的に利用しやすくするため、通過交通対策やK&R、ﾊﾞｽ、ﾀｸｼｰ乗り場の再配置を行う。

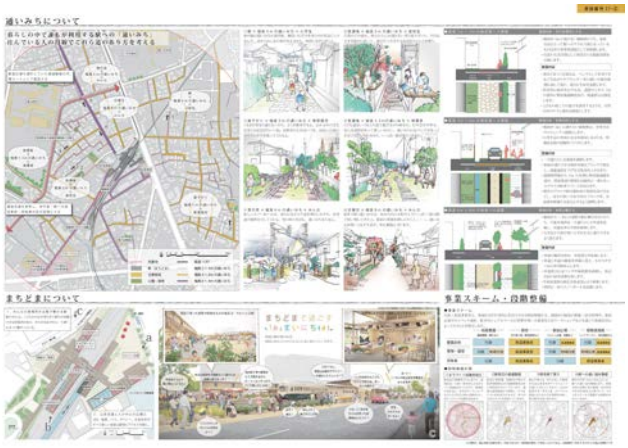
審査講評

南富山の駅周りをどうするか。大変難しい課題に対し、総花的な提案が多いなか、この作品は求められる全体的な課題に一通り答えた上で、今回の提案の肝は駅舎周りにありと見定め、駅周りに絞って発信力のある具体的かつ魅力的な内容や駅が提案されている。「駅と暮らす」「通いみち」などの視点は、この街の芯を捉えていると評価でき、説得力が圧倒的であった。

駅のイメージを明確に打ち出すことにより、新しい南富山のイメージも明確に出ている。木造駅舎のリアリティも高く、平面で駅構内を移動できる点も評価された。

なお、「駅から始まり、通りで拡げる」という分かり易く、具体性に富んだ現実的なシナリオも高く評価された。駅前から地域へ改善の輪が拡がっていく戦略がよく表現され、駅、駅前広場とそこへのアクセスに関する具体的な策は、公共交通を活かしたまちづくりを進める上でも、大変有意な提案である。

駅前については、マンションを撤去し、幹線街路に開いたまちの駅とした上で“かたまり”としての駅舎ではなく“群”としての分棟型の建築構成を考えており、ヒューマンで親しみ易い市民空間をつくる事にも成功している。更に言えば、木造としての建築を考えた事は今後の周辺施設のあり方の先導的モデルになると評価された。



まちづくり月間全国的行事実行委員会会長賞

応募者：（法政大学大学院デザイン工学研究科
都市環境デザイン工学専攻）
結城直紀、友定憲映、池田恵一朗、金城正紀

テ ー マ： 「扇端の交わり　-海と山を結ぶ「漬け床」の街-」

主な提案： 南富山に眠っていた人と人、食と農をつなぐ３つ「扇端（自然との共生）」「鰤街道（海と山、物資と人の交流の場）」「太郎丸の杜（南富山のシンボル）」の交わりを現代的な生活環境や制度に置き換え、新たな交わりを加えることで南富山の文化や生活を後世に伝えるまちづくりを提案する。

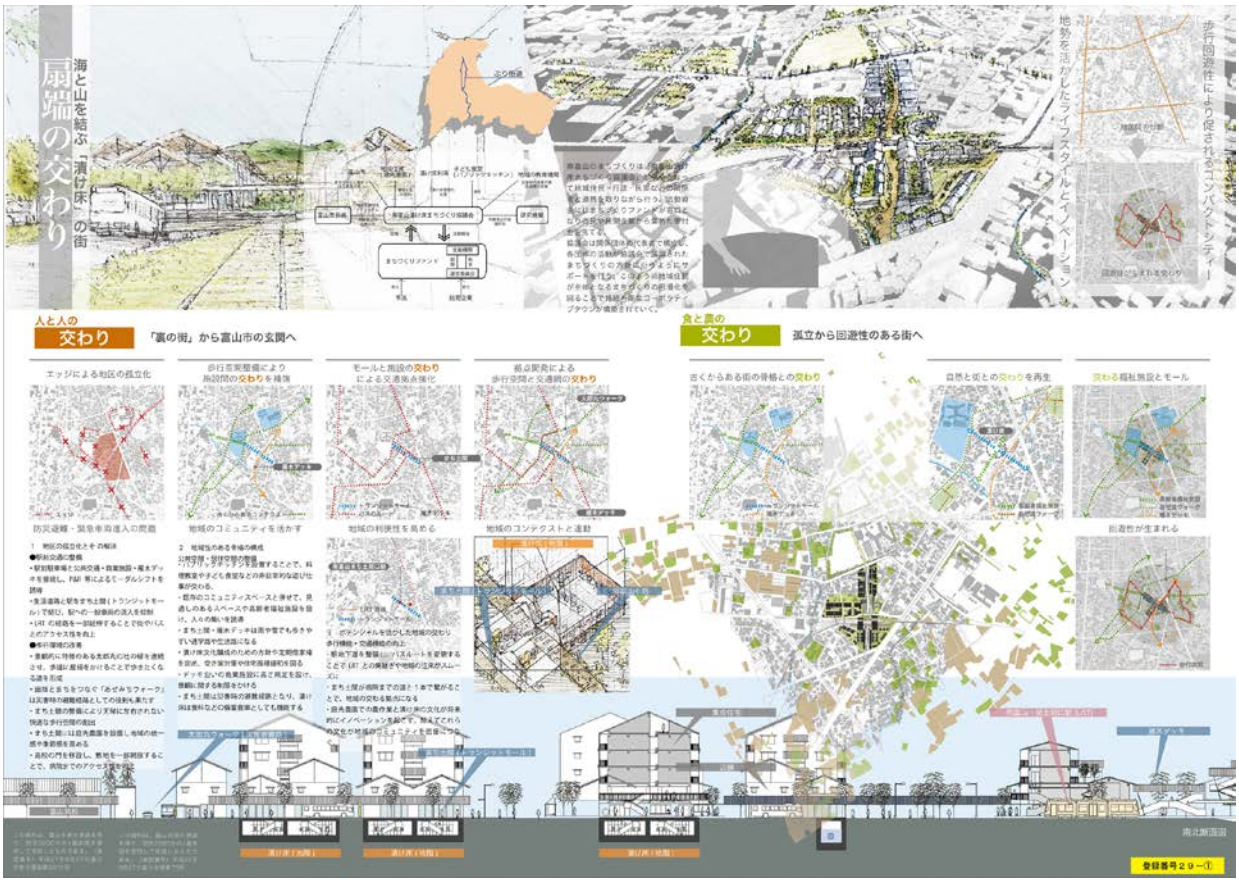
【人、食と農を繋げる取組み】

◆地区を孤立させるエッジの解消
・南北結節点の形成
　まち土間（ﾄﾗﾝｼﾞｯﾄﾓｰﾙ）の整備と並木の形成、P&R 用駐車場・駐輪場と商業施設の整備、等
・雁木デッキ等による歩行空間の再編
・LRT の延伸、コモンガーデニングの整備

◆地域性のある骨格の形成
・高齢者福祉施設の設置
・余剰空間での緑地農園の実施
・オープンスクールの実施
・パブリックキッチンの運営

◆地勢と周辺施設の交わり
・駅地下道の整備
　病院・福祉施設等への歩行空間の連続

◇漬け床によるイノベーション
・漬け床設置によるコミュニティ醸成
・防災面での活用

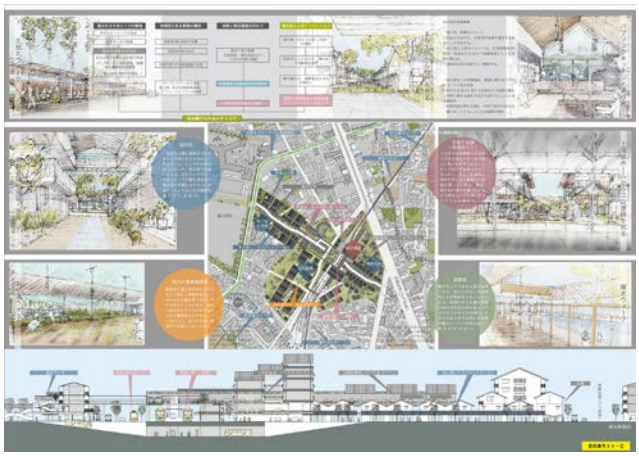


審査講評

南富山駅周辺地区は、公共基盤が弱く、全体のまち空間のイメージが分かり難い場所であるが、この作品では、駅へのアクセス強化を含め、明確な軸線となる道路を駅との対応で計画した点で高く評価された。南北に太く強い軸線をつくり、分散化している要素を結びつけるものを配置するという提案は、都市デザインのコンペとして分かりやすく、特徴に乏しい本地区に具体的なイメージを与える点での構想力が光っていた。

また、500mの対象区域の資源を丁寧に掘り起し、蝶の形のインフラを導入し、新しい枠組みを提示した事は斬新なアイデアである。

ただ、駅に焦点を当て、強烈な動線を入れたところが評価されたものであるが、前段（コンセプト）としてあげられていた「扇端」「鰤街道」「太郎丸の杜」が最終型まで貫かれていないように見える点が残念である。また、地域の繋がりの歴史をもとにした「交わり」を求める大胆な提案であるだけに事業性の検討や、この公共軸に沿って考えられる様々な建築について、今後の上物整備には、しっかりとした都市デザイン的ルールの上で誘導する必要があり、今回の提案では、それらの点でもの足りなさが残った。



(公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞

応募者：（戸田建設株式会社）
松永彩、北村有希博

テ ー マ：「住まう道 寄り添う町」

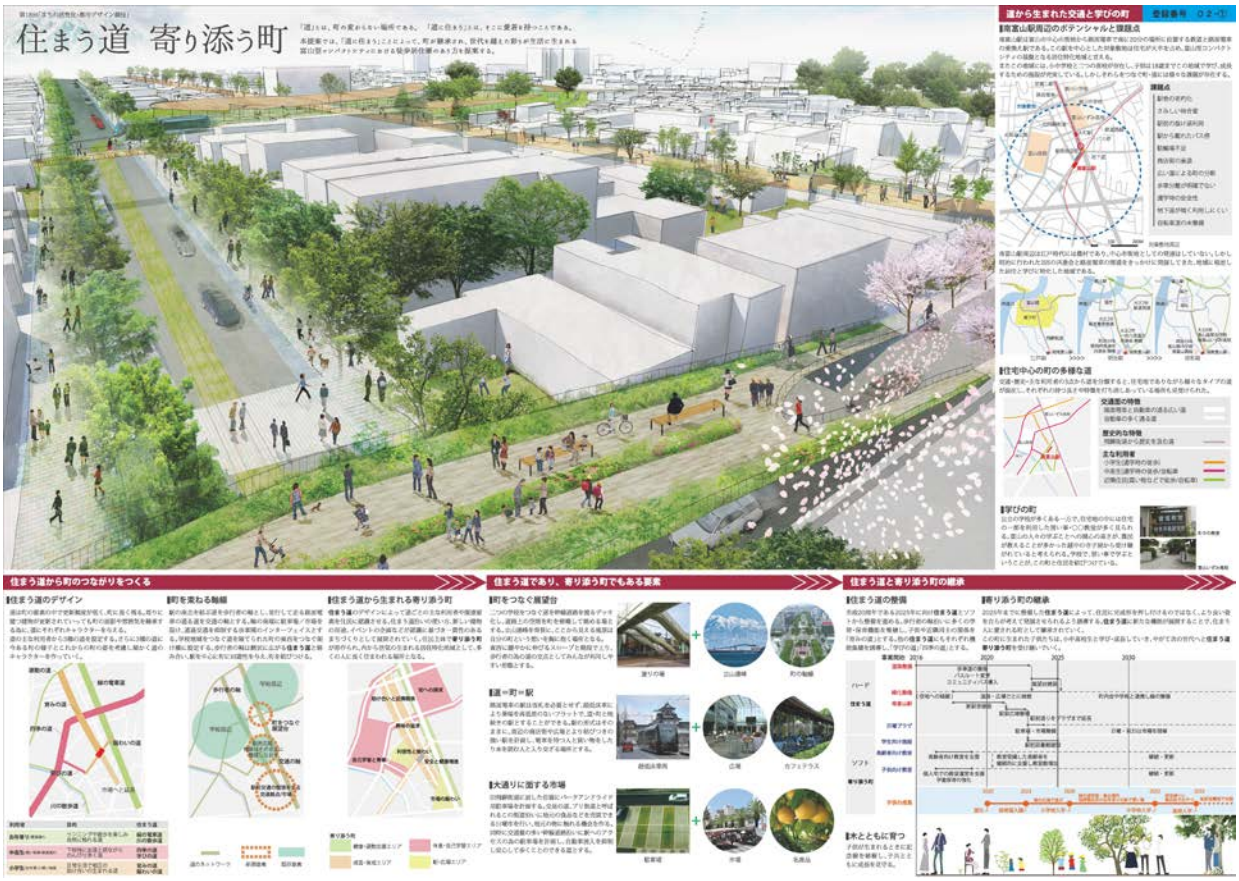
主な提案：「道」とは、町の変わらない場所である。「道に住まう」とは、そこに愛着を持つことである。本提案では、「道に住まう」ことによって、町が継承され、世代を超えた彩りが生活に生まれる富山型コンパクトシティにおける徒歩居住圏のあり方を提案する。

「住まう道から町のつながりをつくる」

◆住まう道のデザイン：
道の主な利用者から３種の道を設定。更に今ある町の様子とこれからの町の姿を考慮し、細かく道のキャラクターを作る。

◆町を束ねる軸線：駅の南北を結ぶ道を歩行者の軸とし、並行して走る路面電車の通る道を交通の軸とする。歩行者の軸は網状に広がる住まう道と絡み合い、駅を中心に町に回遊性を与え、町を結びつける。

◆住まう道から生まれる寄り添う町：道ごとの主な利用者や関連要素を住民に認識させる。住まう道沿いの使い方、新しい建物の用途、イベントの企画などが認識に基づき一貫性のあるまちづくりとして展開されていく。住民主体で寄り添う町が形作られ、内から活気の生まれる居住特化地域として、多くの人に長く住まわれる場所となる。



審査講評

富山市にとっても重要な２つの高校を緊密に繋ぐという打ち出し、旧道を新しい軸として評価するなど、地元にとって大切なことをクローズアップし、形にした点が評価された。

旧道を南北の町を繋ぐ“育みの道”として位置づける事で光をあて、活力を生み出している視点や、２つの高校への通学路の起点として、市電の駅上を丘として軸をつくり出すアイデア等はユニークであり、更に大町の駅に対する提案も、他にはない視点として評価された。また、地区全体を大きく視野に入れようという姿勢も共感された。

一方、「道の展望台」の歩道橋（スロープ）の構造等は要検討である事や、この「道の展望台」の提案が主役のようにプレゼンされ、南富山駅舎、駅前への提案がやや手薄だった事が惜しまれる。この求められている募集内容に対する提案の薄さについては、賛否の評価が分かれた。

奨励賞

応募者： （神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻）
足立将博、中野聡太

テ ー マ： 「熙熙攘攘（ききじょうじょう）　-人が往き交い、暮らしを創り還るまちづくり-」

主な提案: 南富山駅の改修、新たな拠点・交通の導入、ガラスを利用した活動を行い、街全体に外出したくなるきっかけをつくり、交流機会を創出していくことで、市民自身で街の魅力に気付き、街が子供から高齢者で溢れ、にぎやかな街に姿を変えていく事を提案する。

【A：駅前に活気を】
・駅を改修し、商業施設やライブラリーの機能を導入
・駅前にイベントや駅前の商店の活動の場となるプラザを設置

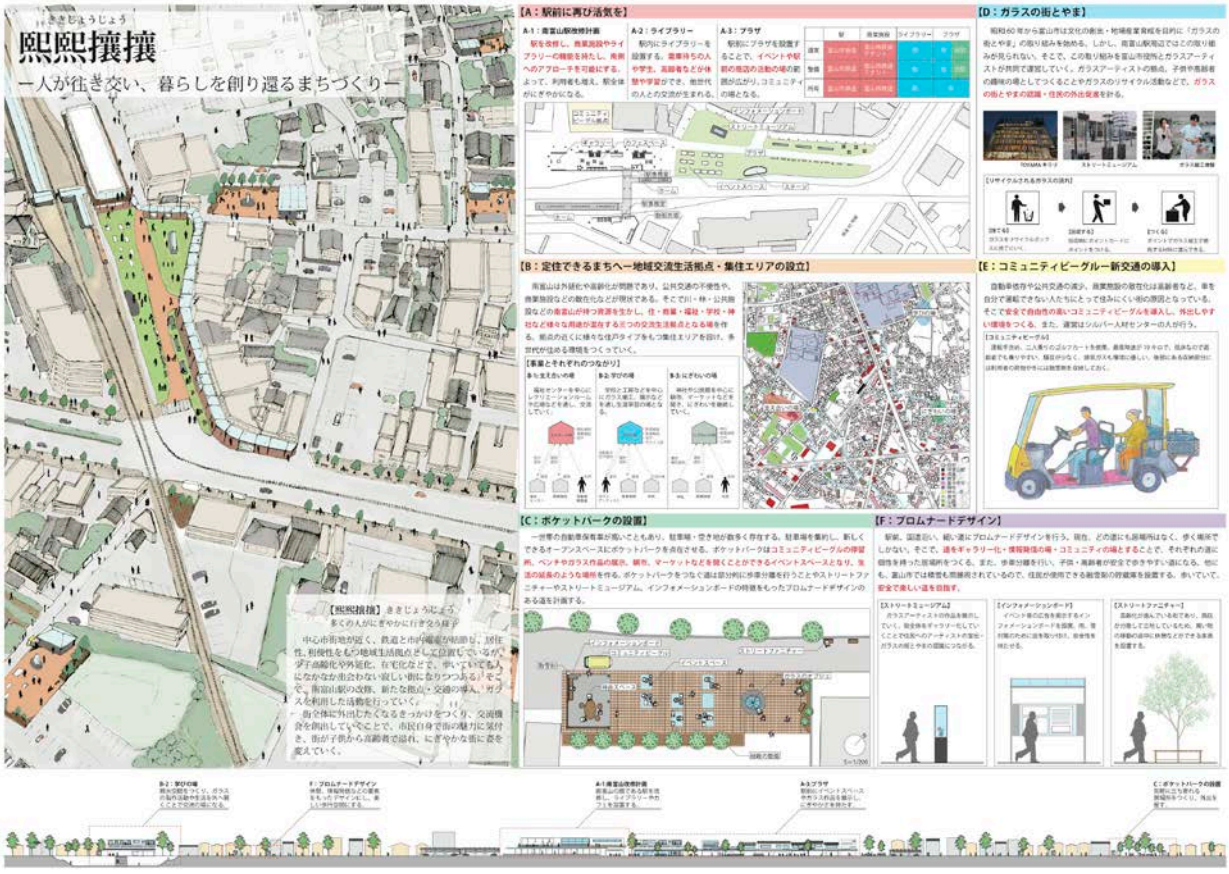
【B：定住できるまちへ-地域交流生活拠点・集住エリアの設立】
・住・商業・福祉・学校・神社など様々な用途が混在する三つの交流生活拠点の創出

【C：ポケットパークの設置】
・駐車場を集約した新しくできるオープンスペースに、イベントスペースとなり、生活の延長のような場所「ポケットパーク」を点在設置

【D：ガラスの街とやま】
・「ガラスの街とやま」の取組みを南富山駅周辺でも展開し、ガラスの街とやまの認識・住民の外出促進を図る

【E：コミュニティビークル新交通の導入】
・環境に良く、低床で高齢者でも乗りやすいゴルフカートを安全で自由性の高いコミュニティビーグルーとして導入

【F：プロムナードデザイン】
・道をギャラリー化・情報発信の場・コミュニティの場とすることで、歩いていて、安全で楽しい道を目指す

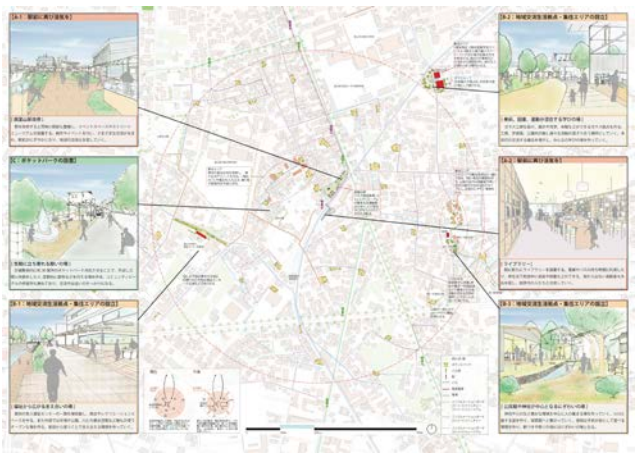


審査講評

地区のアクソメ図が生活感をよく表している様に、まちのことをよく理解し、暖かい提案をする、そんな印象を持つ作品であった。

コミュニティビークルを地区内に配置しネットワークするといった交通面での提案等、地区全体にバランス良く、まんべんなく提案を行い、具体的なイメージを提起している点で高く評価された。

また、「熙熙攘攘」という用語で、これは“何か”という疑問をもたせる、という意味では、良いアイデアであったが、提案の内容が“ポケットパーク”ではアンバランスであった点で惜しまれる。それぞれの要素に更にパンチ力があると、もっと良くなる作品であった。



奨励賞

応募者： （東京大学大学院工学系研究科社会基盤専攻景観研究室）
小出ひかり、髙栁誠也、小粥慶子

テ ー マ： 「“きっときと”な街に“あい”の風が吹く」

主な提案： “きっときと（＝いきいきとした)”なまちは「人と人」や「人と場所」との関係性が豊かになればなるほど醸成される。その関係性の密度を「まち“あい”」「ふれ“あい”」「支え“あい”」「郷土“愛（あい)”」の４段階の“あい”の状況として定義した上で、地域の人々が「郷土“愛（あい)”」をもち南富山周辺にいるすべての人々が生き生きと、“きっときと”な状況で生活できるような空間整備とまちづくりの仕組みを構築する。

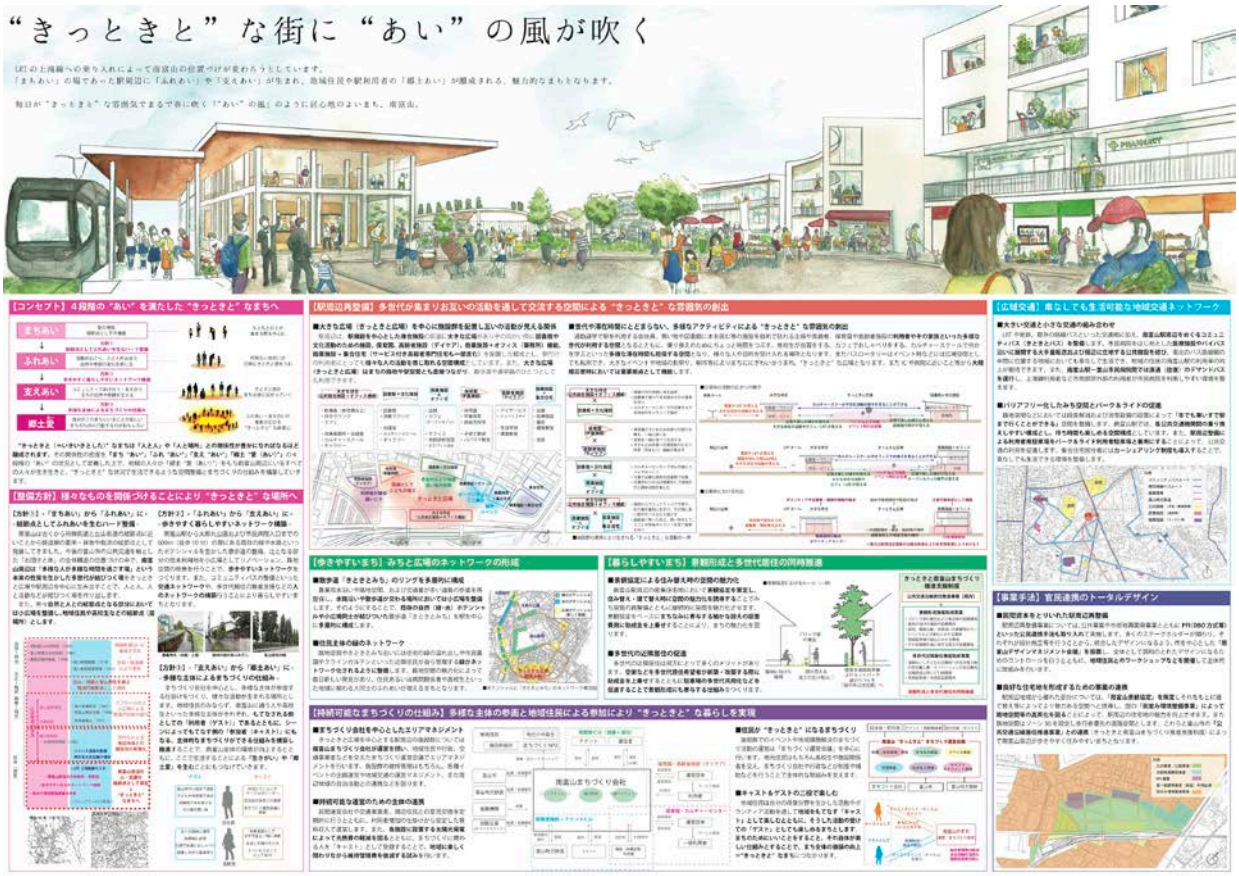
【駅周辺整備】多世代が集まりお互いの活動を通して交流する空間による“きっときと”な雰囲気の創出
・大きな広場を中心に施設群を配置し、互いの活動が見える関係を創出

【歩きやすいまち】みちと広場のネットワークの形成
・水路沿いや散歩道が交わる場所に小広場を整備。既存の自然と小広場が結びついた散歩道「きときとみち」を多層的に構成

【暮らしやすいまち】景観形成と多世代居住の同時推進
・景観協定による住み替え時の魅力化を誘導
・支援制度を導入し、多世代の近隣居住を推進

【広域交通】車なしでも生活可能な地域交通ネットワーク
・南富山周辺をめぐるコミュニティバスを整備。病院や公共施設、商業施設へのアクセスを強化し、車なしでも生活できるネットワークを構築
・バリアフリー化とP&Rの促進

【持続可能なまちづくりの仕組み】多様な主体の参画と地域住民による参加により“きっときと”な暮らしを実現
【事業手法】官民連携のトータルデザイン



審査講評

「きっときと」な、というタイトルが全てのように思う。個々の提案は悪く言えば総花的であるが、この街を「きっときと」な街にしようと考え、様々な提案をし、それをまとめた、そのような姿勢であるため、詳しく見ていくとかなりきちんと地区の状況や資源に応えていることが分かる作品であった。

細かなところまで、しかも様々な要素に目を配り、多面的に考えられたバランスの良い提案がされ、かつ、それを具体的なスケッチで説得力を持って提起している点が評価された。特に一日の生活リズムを細かく示し、計画に生かしている点はユニークであった。

ただ、対象地全体をきめ細かくデザインしている視点は評価されるものの、駅前のデザインについては、公共施設を配置しているというレベルを脱却できていなかった点で惜しまれた。

富山市長特別賞

応募者： （株式会社 森本組）
水谷祐司

テ ー マ： 「とやま青春の街　Toyama‘SEI-SYUN’Town」

主な提案： 南富山駅周辺地区を活性化させるために、「青春」という言葉をまちづくりのキーワードに位置付け、それを基点に、①市内電車の延伸による南部地域の公共交通整備、②全ての世代が活き活きと暮らす事ができる活性化策という２つの軸でのまちづくりを提案する。

《交通施策》市内電車の延伸による南部地域の公共交通整備

●市内電車の富山地鉄への延伸運転
・布市駅までの部分乗入れや、上堀駅の交換線跡地を復活させ住民の足として使える10分間隔での運行を実現。また、南富山～朝菜町に駅を新設し500m圏の拡大を提案
・将来構想として笹津線をLRTとして復活させ、南富山空港への延伸も提案

●南富山駅の乗り継ぎ機能の向上
・停留所移設による乗継ぎ距離の短縮、路線バスの駅構内乗入れ、自転車駐輪場の整備により、市内電車・富山地鉄線・バス・自転車の相互連絡を強化

《活性化策》全ての世代が活き活きと暮らすことができる街に

●高校を地域に開かれた場所に
・高校校門周辺に住民も利用できるｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽを設置し、住民との交流を促進

●地域全体で子どもを育てる施設
・子どもが安心して過ごせる「こども食堂」を併設した児童施設を整備

●散策路/ﾗﾝﾆﾝｸﾞﾛｰﾄﾞの整備
・冷川や北東部の水路を散策路として整備し、地域を周回する散策路を整備

●多様な年代・役割の人々が協力
・多様な年代と役割の人が参加できる施設や制度導入を推進

審査講評

南富山は、かつて鉄軌道４路線の結節点として、駅前の商業施設と背後の住宅地と共に発展した地域である。また周辺には、富山を代表する複数の伝統校が立地し、中心部に隣接した地域でありながら、田園風景や水辺空間が残る環境にある。

本作品は、この地域の伝統・文化・自然環境を踏まえ、地域資源を活かしながら、全ての世代がいきいきと暮らせるまちをつくる提案が、当該地にふさわしい内容となっており、評価できる。

加えて、南富山駅での乗り継ぎ機能の向上や路面電車の延伸などにより、公共交通を軸とした地域拠点の実現を目指す、夢のある提案であり、高く評価した。